「野洲市行財政改革推進プラン」の進捗状況報告について

1. 行財政改革推進プランの概要

「野洲市行財政改革推進プラン」は、令和２年度末時点において、財政調整基金が令和７年度には最低保有規模とする６億円を下回る見込みであったことを受け、財政健全化に向けた具体的な取組と数値目標を明確にするため、令和４年度から令和８年度までの５年間で取組むべき事項をとりまとめ、プランとして策定しました。

今回は、令和6年度末時点における重点的取組事項の進捗と目標の達成状況について報告します。

2. 取組の概要

令和6年度における取組概要の主なものは次のとおりです。効果額等の詳細は別紙に記載しています。

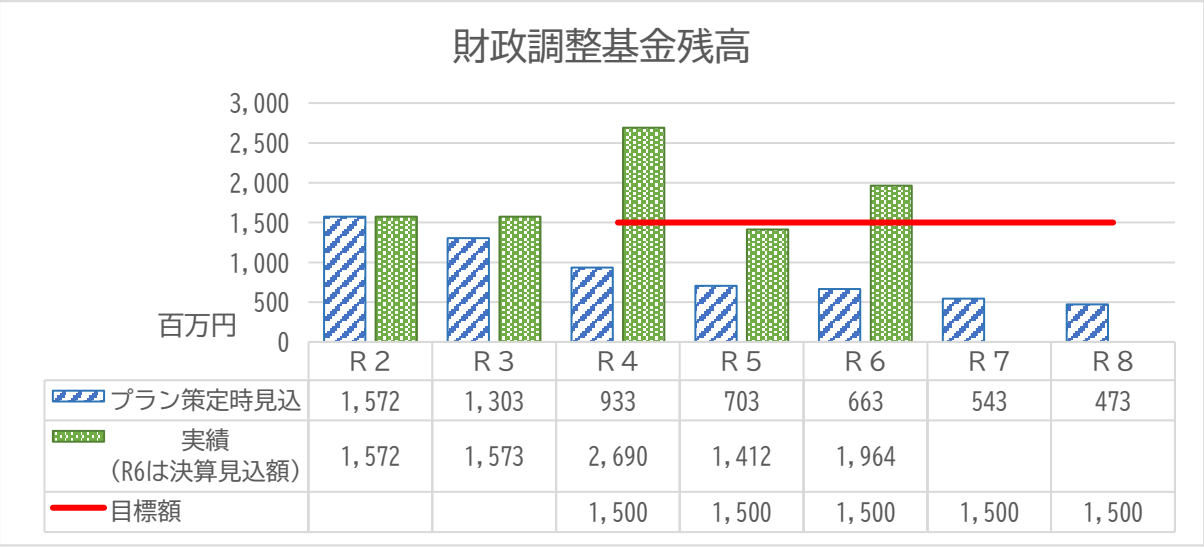
項目番号	取組項目	取組の概要
Ⅰ①	給食業務のあり方の見直し	令和7年4月から調理・運搬業務の民間委託を開始した。調理員の確保による将来的な安定運営などの効果も期待できる。
Ⅱ②	時間外勤務手当の圧縮	人員不足が生じていることから、DX 等により事務の効率化を図るとともに、組織の見直しにより人件費削減に努める。
Ⅱ③	枠予算制度の導入	昨年度同様に実施したが、人件費、物件費、扶助費等の高騰により予算額が膨張し、財政的な効果は得られなかった。
Ⅱ⑤	事務事業見直し・補助金適正化	B&G のプール休止や、シルバーワークプラザ統合等により、支出の削減を図った。
Ⅱ⑥	小中学校プールのあり方の見直し	全校を集約する方針を決定したが、まだ既存施設が使用できる校については実施を見合わせた。
Ⅲ⑦	公共施設の統廃合	文化施設集約の方針に従い、さざなみホールを閉館し、文化ホールは改修のため休館することとした。
Ⅳ⑩	ふるさと納税の推進	計画を大きく上回っているが、恒久的な財源ではないため、これに依存しない財政運営を目指す。
Ⅳ⑫	使用料・手数料の見直し	減免基準を見直し、受益者負担の適正化することで歳入の確保を図った。

3. 令和6年度の成果（効果額）と目標達成状況

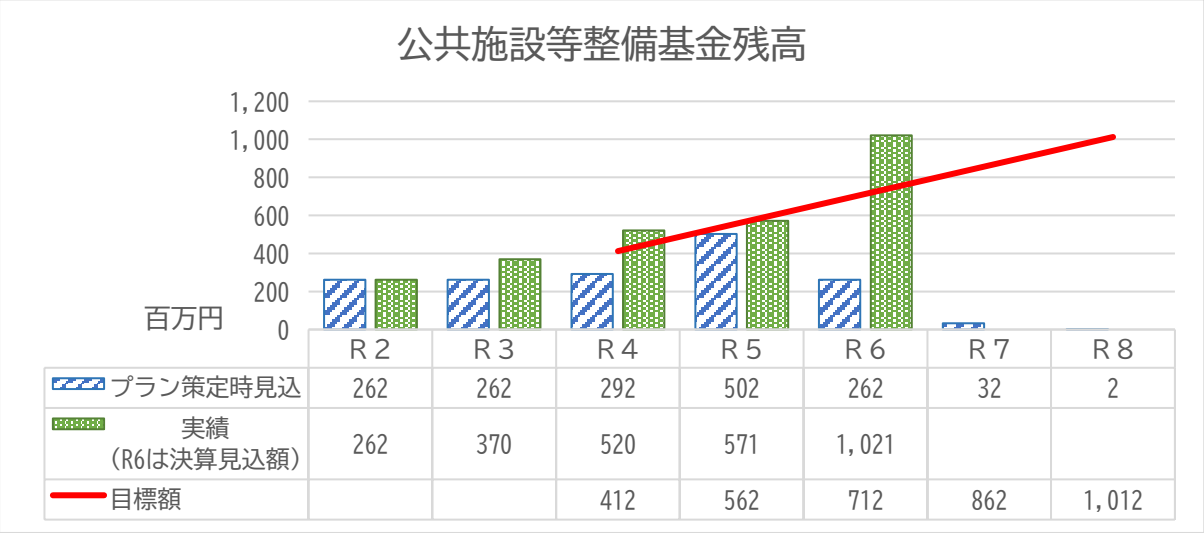
各取組による効果額の合計は、プラン策定時に目標額を上回っており、概ね順調に進捗しているものと評価できます。

また、プランでは、基金を取り崩さない財政運営を実現するため、財政調整基金の残高が15 億円を下回らないこと、公共施設の老朽化対策に要する費用を捻出していくため、公共施

設等整備基金を令和8年度末までに 10 億円積み立てることの2つを目標としていますが、令和6年度末決算見込み時点においては、どちらも達成できています。



	R２	R３	R４	R５	R６	R７	R８
プラン策定時見込	1,572	1,303	933	703	663	543	473
実績（R6は決算見込額）	1,572	1,573	2,690	1,412	1,964		
目標額			1,500	1,500	1,500	1,500	1,500



	R２	R３	R４	R５	R６	R７	R８
プラン策定時見込	262	262	292	502	262	32	2
実績（R6は決算見込額）	262	370	520	571	1,021		
目標額			412	562	712	862	1,012

4. 審議会での意見

学識経験者等の外部委員で構成し、行財政改革の取組みについて審議いただいている「野洲市都市経営審議会」において、当該プランの進捗状況を報告し、次のような意見をいただきました。

- 5年間の計画の3年が終了した現時点において目標が達成できていない取組については、目標値の見直しや、事業の精査が必要ではないか。
- 現時点で既に目標が達成できる見込みなら、目標値を再設定する等、取組を加速すべきではないか。
- ふるさと納税に財源を依存している感があるため、これをもって財政が健全化したと判断するのは危険ではないか。
- マンパワーの不足による取組の停滞が散見されるが、デジタル技術の活用等により、より少

ない労力で同等以上の効果が出せるような取組を進めていくことが必要。人的、財政的資源がない中でどうするか、創意工夫を引き出す働きかけも必要ではないか。

5. 令和7年度の取組み

令和7年度においては、上記の結果や意見を踏まえ、目標の達成に向けた取組みを、引続き各所属と進めていきます。また、進捗が遅れている取組みについては、取組内容の見直し等も含めて担当課と検討し、進捗の改善を図っていきます。

現時点では、プランで定めた基金残高の目標を達成できる見込みであり、策定当時の危機的な状況は脱したものと評価できますが、安定的な財政運営を行っていくために必要な基金規模を勘案し、最終年度に向けた目標値の精査を行います。

一方で、これから控える大型事業の進捗により歳出の増大が見込まれ、今後の財政運営は楽観できない状況であることから、引き続き着実に取組を進めていく必要があると考えています。